

私学の学費も無償に！ すべての私学が発展出来る私学助成を！
誰もが私学に通える私学助成を！

第12号

2020年9月18日(金)

発行: 神奈川私学職員組合連合
横浜市中区桜木町3-9 横浜平和と労働会館

<http://www.k-sikyoren.or.jp>

TEL 045-212-5571 FAX 045-212-5575

2020
速報

神奈川私教連

9・13「学費ホットライン」18件の相談が続々…

神奈川私教連は9月13日・午後に「学費ホットライン」を行い、4時間で18件の相談が次々とよせられました。

当日に向けて朝日新聞・東京新聞などが学費ホットラインの実施告知を掲載すると、期日前から電話での問い合わせがありました。また、当日は朝日新聞からの取材も入る事になり、私教連会議室には横断幕も準備。当日は父母3名を含む11名が集まりました。

公立中学が私教連の案内チラシを増刷・配布

当日、次々とよせられる相談で最も多かったのは、中学3年生を持つ父母でした。

「中学3年の子どもがおり、来年、私学の受験を考えているが、学費のことが心配」との内容が最も多く、例年は春の「私学展」が行われなかったこともあり、学費の事を相談できない父母が多いことが実感されました。

相談の最初にホットラインをどこで知ったかを尋ねると、webや新聞の告知よりも最も多かったのがチラシです。なんと、藤沢・川崎・秦野などの公立中学校が、学費ホットラインを知らせる私教連のチラシを印刷して配り、「学校で子どもがもらって帰ってきたので知った」ということでした。

私教連の名前で配布したチラシを公立中学校が印刷して配布した例は珍しく、それだけ「私学に行きたいが学費が心配」「学費補助はどうなっているのだろうか」という不安がコロナ禍と経済危機の中で広がっているものと思われます。

また、相談の中では、「現在、子どもが私学に通っていて700万円～910万円の枠で学費補助を受けているが、コロナの影響もあり収入が減ってしまうとどんな補助の対象になるのか」という内容や、「神奈川に住んでいても、東京の私学に進むと、神奈川の学費補助の対象とならないのはなんとかならないのか」等の声もよせられました。

学費ホットライン第二弾を検討へ

学費ホットラインの中心となって準備した柳原助対部長は、「実際に取り組むまでは、不安だった。取材も入るのに相談があるだろうか」と不安で重圧も大きかった。しかし、実際にやったらこんなにも相談が多い。こんなにも求められているのか、と実感した。県私学振興課や私立中高協会にも相談に取り組む様に求めると共に、私教連としても第二弾の実施を検討していきたい」と話しています。執行委員会では、近日中に第二段の実施を決めたいと考えています。みなさんも次の機会には、ぜひ、ご参加ください。



9月5日 神奈川私教連 秋の臨時大会 開催

神奈川私教連では、コロナ禍のために春の臨時大会を行うことができませんでしたが、9月5日・土曜日に久しぶりとなる秋の臨時大会を開催しました。今回の大会は、横浜・西公会堂の会場を基本としつつ、ZOOMによるオンライン参加も加えて行いました。(代議員総数 96名 うち会場出席 27名・オンライン出席 15名・委任状 39名 合計 81名で成立)

長谷川委員長から第一号議案「活動報告と秋の活動方針」の提起を受けた討論では、各校のコロナ禍下での状況と闘いが発言されました。学園によっては、いまだに「昼と放課後に教員が机椅子なども消毒。部活も制限」を続け、多忙で何もできない、という報告もありました。しかし、一方でコロナ禍の中で組合の価値が改めて意識され、組合に加わる仲間も生まれてきています。大会は、秋の運動を大いに進めることを確認して、方針案を採択しました。

また、5月の中央委員会で仮決定した19年度決算と20年度予算について、会計監査からの報告を受けて承認しました。

最後に2020年度私教連執行委員会の選挙が行われ、立候補者全員が信任されました。(オンライン参加者はzoomで匿名化したアンケートで投票しました。)

9月の予定

- 9月17日 西湘地区協議会 19時 東海大相模
- 9月18日 神私研実行委員会 19時 私教連会議室+オンライン
- 9月20日 関東ブロック父母懇代表者会議 東京私教連
- 9月24日 湘南地区協議会 19時 場所確認中
- 横浜南北合同地区協議会 19時 私教連会議室+オンライン



神奈川労連 山田事務局長の挨拶より

コロナ禍の中で、労働現場で大変な事態が広がっている。

公務の現場では、国がこれまで雇用調整助成金をどんどん切り縮めた結果、制度を理解して対応できる現役職員がほとんどいない。やむなくOB/OGに頼んで対応している。保健所で保健師さんが不足、行政は「増員する」と言っているが、実態は派遣を臨時に配置し、夜間や休日を派遣にやらせている。また、医療の現場では、クラスターとなった病院で働く人が、近くのスーパーで『〇〇病院職員の方は出て行って下さい』と放送された、など深刻な差別が生まれている。医療労働者からは『医療関係者に拍手するのを見て、危険な所でお前たちは犠牲になれ、と云われている気がした』との声もよせられている。

さらに労働相談が激増している、建設では5万人の組合員のうち1万人から労働相談があった。神奈川労連でも、4月・5月と200件以上の労働相談に毎日、対応してきた。

今こそ、私たちの運動が本当に求められている。